

令和5年度第6回小規模多機能型居宅介護事業所 「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和6年2月22日（木）10：30～11：40

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 大木健守 小川秀文 太田奈津栄 及川大樹 江波戸勝
高齢者支援課 斉木

〔 社協 渡辺副会長 局長
紙ふうせん 佐藤 〕

●開会のことば 渡辺副会長

●委員長あいさつ

●議題

（1）令和5年度12月・1月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告があったが何か質問はあるか。

及 川：泊りの3回は同じ利用者か。

佐 藤：同じ利用者が3泊利用している。

太 田：利用者がもう少し増えたらいいが。

委員長：こういう声があるがどうか。

局 長：その通りと考えている。20日に市の实地指導があったが、運営には指摘事項は無かったと捉えている。市からの結果通知書が来ていないが、届いたら皆さんにも周知したい。処遇改善加算や届け出のところで指摘があった。利用者が減少傾向だったので職員配置は指摘無くスムーズだったが、定員24人定員の所16人なので増やしていきたいと思っている。

委員長：あと8名。推進委員の方も頑張って声をかけて欲しい。

佐 藤：12月の入所の利用者は家庭内での虐待の疑いがあり、市に相談したところ入所になった。認知症だと何度も同じ話をしたり、介護者側の話を聞かず自分勝手に行動したりするので、介護者の負担が大きく虐待につながりやすい。

大 木：民生で訪問している家で、高齢者がいて日中独居なので、息子に紙ふうせんの利用を勧めてみたがまだ看れるからと断られた。

佐 藤：どうしようもなくなった時にさあどうしようと思っても、入所がすぐできるわけではないので早めに相談してもらおうと提案できることも多いので、家庭の事情はあると思うが、早めに外部の手を借りた方がいい。

委員長：今コロナが5類になったのでボランティアの訪問はどうなっているのか。

佐 藤：まだコロナは10波と言われているので、ピアダンスのように人数が多いものは躊躇してしまう。ナミキ楽団は2月にも訪問してもらった。来月は元職員の友人がカラオケや手品のボランティアをやっている所以訪問してもらおう予定になっている。

委員長：危険が無いようにいろいろな催しをやると利用者も喜ぶ。

佐 藤：外出もいいが、行くところが限られてしまう。利用者も年々歩けなくなっている。

委員長：外の空気を吸うだけでも気分転換になる。堀川浜で海を見せるのもいいのではないか。

佐藤：先日は河津桜を見に米倉の西光寺に行った。途中も八日市場の街中を周って行った。

大木：シニアクラブで月1回カラオケや琴などアリーナでやっている。見学に行っても問題ないと思う。自分の方で話をしてもいい。

及川：琴などいい音色なので女性は喜ぶのではないか。

委員長：そういった資源は大いに利用した方がいい。

太田：5月にまたサツマイモの苗を植えるのでその時は声をかけさせてもらう。

委員長：高齢者支援課から何かあるか。

支援課 齊木：1月25日に地域ケア会議で紙ふうせんの利用者を事例提供してもらい作業療法士と一緒に訪問し、自宅での生活の仕方などアドバイスさせてもらった。

委員長：訪問介護の介護報酬が下がると聞いたが、ヘルパーの給料が下がるのか。紙ふうせんの訪問に影響はあるのか。

佐藤：今回介護報酬が下がるのは訪問介護事業所なので紙ふうせんには影響はない。訪問介護は求人を出しても敬遠されがちで加えて事業所も収入が減るので大変だと思う。

局長：社協でも訪問介護事業を行っているが、介護保険サービスの他に障害福祉サービスの訪問もやっている。重度の障害だとヘルパーの仕事内容も大変だが、障害福祉サービスの報酬が多いので訪問介護事業は継続する。

局長：3期実績比較表について説明

利用者数減少により赤字傾向。前年度からの繰越金を使うが繰越金が0になってしまうので、今年度も他の事業状況を見ながら他の所から繰り入れて繰越金が0にならないようにしたい。

●閉会のことば 渡辺副会長